

ああ 恥ずかしい私の失敗談

結城 貴志

2017年10月7日、芦別岳北西壁ダイレクト及び北壁カンテを、登るためにアプローチを始めた。山行の結果としては、ガスで岩がかなり濡れていたこともあって、北西壁ダイレクトを3P登ったのみであった。北西壁ダイレクトの2P目をリードしたが、とにかく恐かった。山でのアルパインクライミングが、初めてであったということもあってか、ただただ恐い。恐いから身体がこわばって自由に動けない。技術的にも身体的にも、十分対応できるルートであったのに、精神的な部分で負けてしまった。上記の2ルートを登るために、色々トレーニングして準備して臨んだが、登れる身体は出来上がっていた反面、2P目の自分が陥ってしまった、精神状態に満足がいかなかったため、悔しい思いで懸垂下降した。あまりに悔しかったし、このままではアルパインクライミングなんて続けられないと考えて、その原因を考えてみた。原因の分析結果としては.....その日のクライミングを始める時点で全てにおいて、後手に回ってしまったことだ。

後手①

登るルートのことをよく分析しないまま登ってしまったこと。

イメージを描かないままに登ったことで、想定していなかったシチュエーションが多すぎて、緊張感が続いたためどっと疲れてしまった。「北海道の山と谷」でルートについての、情報を頭にいれたつもりではあったが、他の情報源にも当たってさらに多くの、さらに詳細の情報を手に入れ、頭に自由にルートを描けるレベルに、しておくべきだった。

後手②

疲れを引きずって、クライミングをしてしまったこと。

3時間のアプローチの後の、自分の身体の状態が意外と、精神的に疲労感たっぷりだったこと。

3時間のアプローチの後に、登ったことなどなかったのも、イメージできなかった。

このようにいくつか後手に回ってしまう要素があって、芦別岳での登攀に臨んだものだから登攀中に、遭遇した困難に立ち向かえず、ただただ恐いという精神状態に、陥ってしまったのだと思う。後手に回らないように、先手を打ち続けていけば、困難に遭遇した際に、それを乗り越えて行く、マインドセットを持つことができると思う。私としては芦別岳遠征に行ったことは、上記のような失敗を犯した、失敗談でもあるしそこから多くのことを学べた、大きな前進でもあった。

